



桐生ロータリークラブ週報

2009年

国際ロータリー第2840地区 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ



Make Dreams Real

R.I 会長 李 東 建 (D. K. Lee)

善意というものがいいなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためでしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前 原 勝 樹

会長 正田 博之 幹事 松島 宏明

クラブ会報・広報委員会 大友 一之・竹内 康雄・木村 滋洸・肥塚 俊成

6月15日号

第2697回例会

(6月8日(月) 第2例会)

1. 点 鐘
2. ロータリーソング齊唱
3. 来訪者紹介
4. 会長の時間
5. 幹事報告
6. 委員会報告

7. 卓 話 「国連の難民援助活動への参加ー『世界難民の日』を通して」
国連UNHCR協会
事業部シニアマネージャー 中村 恵 様
8. 点 鐘

ようこそビジター

〈卓 話 者〉 国連UNHCR協会
事業部シニアマネージャー 中村 恵 様

〈F M きりゅう〉

小保方 貴之 様
宮坂 あつこ 様

会長の時間

いよいよ今週は関東地方も梅雨入りになりそうです。昨日は暑かったですが今日はしのぎやすくなっています。また、サッカーは日本代表が勝ってワールドカップに出場が決まり来年の南アフリカ大会が楽しみになってきました。

ロータリー関係ですが、先週月曜日に読売新聞の取材がありまして、当クラブで植えた相生の「岡登緑道」の紫陽花、昨年の佐々木年度で手入れしたこともあるきれいに咲いています。松島幹事と現場に行って話をしてきました。これからが見頃だと思いますので時間があつたら一度見に行ってください。(6月6日(土)の読売新聞地方版にのりました)

今日の卓話は国際UNHCR協会のシニアマネージャーの難民対策で活躍の中村恵様です。多くの会員に聴いてもらいたいと思いますのでよろしくお願いします。

幹事報告

- 富山にあります(株)生産技術という会社よりロボット展示場「ロボットミュージアム」のパンフレットが届いております。
- 桐生南、桐生西、桐生中央、桐生赤城、足利の各

R.C.より週報到着。

- 本日例会終了後、次年度理事役員予定者会議を開催致しますので、関係役員の方は出席お願い致します。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成21年6月8日)：総員66名・出席46名
平成21年5月25日例会修正出席率：92.0%

ニコニコボックス

山口正夫君・前原勝良君・村田勝俊君・竹内靖博君…本日の卓話に、国連日本UNHCR協会シニアマネージャーの中村恵様を講師にお迎えして。／藤井征夫君…正田会長、松島幹事、一年間ありがとうございました。／山崎克彦君…誕生祝／北川 洋君…サッカー日本代表のワールドカップ出場決定、世界一番乗りを祝して。／五十嵐健雄君・小島弘一君・山崎一順君・正田博之君・前原正一君・坪井良廣君・川島康雄君・前原 勝君・岸田信克君・松島宏明君・前原勝良君・本田雄一郎君・村田勝俊君・澤田匡宏君・竹内靖博君・木村洋一君・山上達也君・山崎克彦君…写真を戴きました。

例会場 桐生俱楽部 TEL45-1513 例会日 毎月曜日 12:30PM

ホームページ <http://www.kiryu-rc.org>

メール info@kiryu-rc.org

国際奉仕委員会 国際奉仕委員長 竹内靖博君
国際ロータリー第2840地区「識字率向上セミナー」
に参加して

2009年5月31日(日)
伊勢崎市クレイン・パーク山楽荘にて各地区より100余名の参加のもとにセミナーが開催されました。来賓として五十嵐伊勢崎市長、群馬県生活文化部国際課長山口氏、又伊勢崎市日本語ボランティア協会関係者も多数出席して午前10時より午後4時まで第一部日本語教室見学会・講演会・情報交換会、第二部シンポジウム



がパネルディスカッション形式で行われ識字率向上について研修が行われた。講演では(社)シャンティ国際ボランティア会海外事業課担当の木村万里子氏によるラオス・カンボジア等の実例を説明して戴き、世界の5人に一人の割合で字の読めない人達が存在すると言われている。読み書きが出来るということは、①生きる力 ②人間性回復の権利(自尊心・愛国心) ③自分の存在の認識 ④世界の広がり(知る喜び) ⑤社会参加への道 等であり人間として絶対に必要なものであるという。私達はそういう人達に手を差しのべるべきと訴えていました。又、ふくしープラザで行われている日本語教室では、ペルー・イラン・ブラジル他数か国の人達が年令を問わず初級・中級・上級に分かれボランティアの教師のもと熱心に勉強している姿を見学させていただき新たな国際奉仕への意欲を高めることができました。

卓 話



「国連の難民援助活動への参加ー『世界難民の日』を通して」

国連UNHCR協会
事業部シニアマネージャー
中 村 恵 様

6月20日「世界難民の日」とは

2000年12月4日、国連総会で、毎年6月20日を「世界難民の日」(World Refugee Day)とする旨が決議されました。この日は、もともとOAU(アフリカ統一機構)難民条約の発効を記念する「アフリカ難民の日」(Africa Refugee Day)でしたが、改めて難民問題に対する世界的な関心を高めるために制定されました。難民キャンプでは毎年、普段は配給物資に頼る受身の生活を余儀なくされている難民の人たちが、自主的なイベントを企画しています。私達にとっては、一人一人に何かできるのかを考え、できることを実践する日となっています。

ロータリー奨学生から国連職員へ

ロータリーの友2009年2月号に「UNHCRで活躍する元ロータリー財団奨学生」という記事を書かせていただきましたが、私は1983-84年にロータリー

財団奨学生としてフランスに留学しました。その後、1989年3月末にスイス・ジュネーブにあるUNHCR本部に就職し、国連職員になりました。UNHCRは、難民が出る状況では緊急救援を、難民の避難先では数年から数十年にわたる生活支援を行い、各状況に応じて難民問題の3つの解決策(本国への帰還・庇護国での定住・第三国での定住)を目指す国連の人道支援機関です。

UNHCRの変遷

難民を国際的に保護する役割を担う国連機関として1951年に活動を開始したUNHCRは、東側から西側に保護を求める人々や、米ソの代理戦争の犠牲者として難民となった人々などを援助する役割を担ってきましたが、1989年11月のベルリンの壁崩壊に象徴される東西冷戦の終結によって、多くの難民問題が解決に向かうとの期待が高まりました。

そんな機運が残っていた1991年に緒方貞子さんが第8代国連難民高等弁務官に就任しました。その後の10年間は、ユーゴスラビアやソ連邦の分裂、ソマリアやルワンダの内戦などによって新たに難民や国内避難民となった人々が、UNHCRの援助を必要とした激動の時代でした。今でもソマリア、スーサン、コンゴ民主共和国、アフガニスタン、イラク、スリランカなどでは、深刻な状況が続いています。

援助の最前線、UNHCRフィールド勤務

私はジュネーブ本部から東京事務所広報室に移り、97年末にミャンマーに赴任しました。任地は、バングラデシュとの国境に位置するラカイン州北西部にあり、首都ヤンゴンから飛行機、船、自動車を乗り継ぎようやく辿り着く僻地でした。マラリアに脅え、下痢に悩まされながら、全員が単身赴任の同僚たちと助け合いながら暮らしました。スーサン出身の難民である同僚もいて、彼らから世界の現実を学び、日本がいかに自由で豊かな国であるかを思い知られました。

後方から支える難民支援

国連の難民援助活動に必要な資金は、各国政府からの任意拠出金と民間からのご寄付によってまかなわれています。つまり、最善線での援助活動は後方からの様々な支援に支えられているのです。2000年末に緒方貞子氏が国連難民高等弁務官を退官された同じ時期に私もUNHCRを退職し、UNHCRの日本における公式支援窓口となる国連UNHCR協会の設立に参加しました。後方から最善線での活動を支える活動が、私にできることだと考えたからです。

日本では2010年から、タイの難民キャンプで暮らしているミャンマー難民を3年間にわたって毎年30人ずつ受け入れるパイロットプロジェクトも始まります。ちょうどUNHCRを題材としたNHK土曜ドラマ「風に舞い上がるビニールシート」が、5回にわたり7月4日まで放映されていますので、ぜひ最後まで見ていただき、皆さんに無理なくできることから、国連の難民援助活動に参加していただければ幸いです。

* お 知 ら せ *

【次回最終夜間例会予告】6月22日(月) 卓話

- ・会長 斎田 博之君 「一年を振り返って」
- ・幹事 松島 宏明君 「一年を振り返って」